

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立	野々浜小	学校
------	------	----

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）					
							□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	【確かな学力】基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成	★	見直し	国語科・算数科における基礎学力の定着と「わかる」「できる」を実感する子ども主体の授業づくりの推進【主】【思】	・学習活動や思考の過程で価値づけを行いながらやる気を引き出す授業づくり ・みんなと考えたら「わかった」「できた」という達成感を味わえる授業づくり ⇒自己肯定感や主体的な学びへのつながり	①授業で考えることが面白い」と回答した児童の割合を80%以上にする。【児童アンケート】 ②国語科・算数科の単元テスト60点未満の児童を10%未満にする。	□①授業で考えることが面白い」と回答した児童の割合は83%である。 ②単元テスト60点未満の児童は国語科11%、算数科9%である。 ◎各担任が授業の見学をし合うこと等を通して、教材研究への意識を高めつつある。その反面、クラスの生徒指導上の課題から学習への意欲を下げている児童も増えている実態がある。	3	4	①自分が選んだ学び方や学びも振り返る等、自己決定の場の設定と振り返りを行う。 ②学級の実態を把握し、弱点克服シート作成を行う。基礎学力の定着を図る時間と、自分達で考え、選んで学ぶ時間の配分を考えながら単元計画を考える。	□①授業で考えることが面白い」と回答した児童の割合は84%である。 ②単元テスト60点未満の児童は国語科6%、算数科7%である。 ◎配慮の必要な児童に対する支援を充実させたことで、学びに向かう意欲や基礎学力を高めることができつつある。	3	3	4	①授業における対話場面を単元の中で計画的に設定し、児童同士の発言に対する反応や評価の指導を充実させる。 ②基礎学力の定着を重点課題とし、引き続き単元テストの結果やわくわくタイムなどの取り組みの実際について校内で共有し、学校全体で組織的に指導を進める。
6	【豊かな心】達成感・自己有用感の享受と自尊感情の醸成	★	見直し	児童相互の立場の自覚を促し、お互いを尊重し合い、自尊感情の高い児童を育成する。【主】【共】	・学級力レーダーチャートを用いて学期に2回のスマイルタイム等で学級状況の振り返りをし、改善を行う。 ・異学年との関わりの中で、相互に評価し合う場を充実させる。	③「自分は目標をやりとげよう」と取り組んだ」と回答した児童の割合を85%以上にする。【学級力アンケート】 ④「自分の考えは認められている」と回答した児童の割合を80%以上にする。【児童アンケート】	□③「自分は目標をやりとげよう」と取り組んだ」と回答した児童の割合は86%である。 ④「自分の考えは認められている」と回答した児童の割合は73%である。 ◎多くの学級でスマイルタイムに話し合いをし、課題に応じた目標を決めることができた。	3	3	③スマイルタイムの話し合いの中で、「目標達成力」に関する取り組みを考えるようにする。 学級力アンケートについては、スマイルタイムに決めたことの取り組み結果について、ふり返りまで行う。 ④職員間で取り組みを共有し、それぞれの実践につなげている。	□③「自分は目標をやりとげよう」と取り組んだ」と回答した児童の割合は88%である。 ④「自分の考えは認められている」と回答した児童の割合は71%である。 ◎目標達成率では、行事に向けた目標設定や振り返りの充実が向上につながった。自尊感情については、児童同士の支え合う力に課題がある。	3	3	3	③引き続き、行事ごとに、学年の実態に応じた目標設定を行い、振り返りの場を設ける。 ④各学級で「ありがとうの木」を作成、掲示する取り組みを行い、「自分が認められている」という実感を一人一人がもてるようにする。
7	【健やかな体】主体的に運動に親しむ態度の育成		見直し	運動の楽しさ・喜びを味わい、自己の体力を見つめ、高めていこうとする児童を育成する。【主】【課】	・運動の特性を味わわせる楽しい体育科の授業を展開する。 ・運動の必要性に気づかせる指導を工夫する。 ・児童一人一人が自己の特性や課題に応じた目標を設定して取り組み、体力向上の実感を感じさせる。	⑤体力づくりの様々な取り組みに参加し、「運動の楽しさや喜びを感じる」ことができた」と回答した児童の割合を80%以上にする。【児童アンケート】	□⑤体力づくりの様々な取り組みに参加し、「運動の楽しさや喜びを感じる」ことができた」と回答した児童の割合は92%である。 ◎セット運動・グーパー運動・柔軟の実施がほぼ定着している。 ◎頑張りカードに、各学年で目標値を決めて、取り組むことができた。 □取組内容については個人差が大きく、個々の課題や成果が見えにくい。	3	4	⑤グーパー運動・セット運動・柔軟の継続する。 課題の大きい「ボール投げ」に焦点化した運動を、体育の授業の前段に実施する。体育委員会による運動に関係する動画撮影を行い、視聴することで児童への意識付けを行う。	□⑤体力づくりの様々な取り組みに参加し、「運動の楽しさや喜びを感じる」ことができた」と回答した児童の割合は84%である。 ◎個々の課題に合った練習方法を自分で考え、取り組む力がついてきている。研修で提案した活動を通して、ソフトボール投げで遠くに飛ばす投げ方を意識して指導することができた。	3	3	4	⑤がんばりカードで、今月の振り返りや来月に向けての目標の振り返りを具体的に書かせるようにする。 引き続き、ソフトボール投げの取り組みを授業に取り入れ指導をする。また、グーパー運動の検証として握力の再測定を行う。

7	【活気ある教職員】 教職員の元気・やりがいの醸成		継続	やりがいを実感しながら業務を進めることのできる職場づくりを進める。(職員の自己肯定感) 【主】【課】	<ul style="list-style-type: none"> 各種計画を早めに提示し、勤務時間を意識しながら見直しを持った業務遂行ができる体制づくりをする。 職員個々の目標達成に向けて日常的に交流し合い、協働して取り組む職員集団づくりを進める。(時間の確保・プロセス評価・助言等) 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥時間外勤務時間が月45時間未満となる職員の割合を100%にする。 ⑦100NENアンケートや職員アンケートで「やりがいを感ずる」職員の割合を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> □⑥時間外勤務時間が月45時間未満となる職員の割合は100%である。 ⑦職員アンケート「やりがいを感ずる」職員の割合は93%である。 ◎業務改善に対して、職員の意識が高く、進んで実践している。また、昨年度の振り返りを活かし、業務量を減らしている。課題としては、児童の学校生活の時間(掃除、休憩)に改善すべき部分がある。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ◎児童の学校生活の時間を見直し、職員の退校時刻を早められるようにする。職員間で交流した改善策の中で、自分に生かせるものを考え、実行する。日々の業務で気になる点を書きだしておくなど、業務改善を意識しながら過ごす。 □⑥時間外勤務時間が月45時間未満となる職員の割合は100%である。 ⑦職員アンケート「やりがいを感ずる」職員の割合は93%である。 ◎業務改善に対して、職員の意識が高く、交流した内容を進んで実践している。効率よく業務を進めることを意識して、平均退校時刻を早めることができている。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ◎現在の時程が、児童を学校に滞在させる時間が長いものになっており、成績業務等が勤務時間に間に合わない状況になっているため、来年度以降、勤務時間外の業務を減らすために時程の修正をしたり、校内提出物の精選をしたりする。 ⑦職員間でのコミュニケーションを充実させ、風通しのよい職場の維持に努める。
6	【信頼される学校づくり】 保護者・地域から信頼される学校の創造	★	継続	学校・家庭・地域が学校の課題や取組・成果を共有・協働して児童を育てる。 【共】	<ul style="list-style-type: none"> 各種便りの発行やHPの更新を計画的に行い、学校の取り組みを保護者や地域に周知する。 学校の取組や児童会の取組等に家庭・地域の協力を要請し、課題解決を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「信頼される学校づくり」に関する項目について肯定的な回答の割合を90%以上にする。【保護者アンケート】 	<ul style="list-style-type: none"> □◎「信頼される学校づくり」に関する項目について肯定的な回答の割合は94%である。 ◎計画的に通信を発行し、児童の学習や生活の様子を発信している学級が多い。行事や授業の変更点や詳細の説明等については、事前にメール配信で保護者に周知している。 	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ◎学級通信の交流をし、学級づくりの1つとして役立てる。学力テストの結果や研修の取組、授業への還元方法を保護者に知らせること等から、学校教育の理解が得られるようにする。 □◎「信頼される学校づくり」に関する項目について肯定的な回答の割合は92%である。 ◎計画的に通信を発行し、児童の学習や生活の様子を発信した。道徳を紹介する通信を発行し、学校全体で取り組んだ。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ◎引き続き、通信の発行やHPを更新し、学力テストの結果や研修の取組、授業への還元方法を保護者に知らせることで、学校教育の理解が得られるようにする。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。